

行政調査報告書「シティプロモーション・交流人口拡大特別委員会」

平成 30 年 10 月 17 日～19 日

■博多まちづくり推進協議会（福岡県福岡市）

『まちのにぎわい創出について』



多くの民間事業者が協議会の会費を出資し、まちづくりを主体的に進めている。駅前通りの街路灯に設置したバナー広告枠を販売し、協議会活動費に充てている。こうした、まちづくり原点には「博多どんたく」等の祭文化から生まれた郷土への誇りがある。本市にも「安城七夕まつり」をはじめとする地域の祭りがある。このような文化をまちづくりへつなげるための担い手の育成やきっかけ作りが必要である。

■公益財団法人 九州大学学術研究都市推進機構（福岡県福岡市）

『学術研究都市構想について』

272ha の広大なキャンパスの敷地に約 1 万 8 7 0 0 人の学生が通っている。世界的な「知の拠点」の創造を目指し、多分野で産学官連携が行われている。本市でも、三河安城を核とした「知の拠点構想」を立ち上げていきたいが、産学官が連携し、高度先端教育機関の誘致が必須である。また、西三河全体で製造業、農業を含む産業の発展を見据えた構想の立案により人口減少社会に立ち向かっていく必要もある。



■ h i t o t o 広島（広島県広島市）

『h i t o t o 広島について』



広島大学のキャンパス移転後の跡地に市と大学が連携し、「知の拠点再生プロジェクト」として新しい街ができた。敷地内には 53 階のタワーマンション、スポーツクラブ、病院、ケアハウス、シェアオフィス、コワーキングスペース、アンテナショップがある。新たな交流、体験、学び、遊びを通して人生を豊かにする街づくりは、本市でも取り入れる必要性を強く感じた。